

午後 試験

問 1

問 1 では、表領域の所要量見積りとディスク装置への配置、性能調整のためのテーブル構造や表領域のブロックサイズの見直し、パーティション化の検討について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 1(1)の正答率が高かったが、(2)の正答率は低かった。(2)については、(1)の手順に具体的な数値を当てはめる際に数値を取り間違えないように注意してほしい。

設問 2(1)は、状況記述から受注時点で受注及び出荷の事業所コードが確定すること、及びテーブル構造ではこの点が考慮されていない点を読み取ることを求めたが、正答率は低かった。(3)は、トランザクション発生量の多さだけに着目し、トランザクション当たりのロック対象範囲を考慮しない解答が多かった。(4)は、トランザクション間でデッドロックが発生する状況を端的に記述する解答を求めていたが、二つの処理が同じテーブルを参照、更新している点を指摘するだけの解答が多く見受けられた。デッドロックが発生する原因について理解を深めてもらいたい。

問 2

問 2 では、概念データモデリング、関係スキーマの設計、数量データの値の設定方法について出題した。全体としてマスタ系の部分の正答率は高かったが、トランザクション系の部分の正答率は低かった。

設問 1 では、“受注明細”のサブタイプ構造、“生産枠”及び“当日枠”への引当にかかわるリレーションシップについての正答率が低かった。状況記述にある業務上のルールを見極めて、それらがリレーションシップに反映されていることを注意深く確認してほしい。

設問 2(1)では、外部キーの属性の正答率が低かった。業務ルールから求められる外部参照制約に留意して属性を洗い出してほしい。

設問 2(2)は、全般的に正答率が低かった。広範な文章にまたがってはいるが、引当にかかわる属性の基本の役割、各業務イベントでの設定方法は与えられており、本文をよく読めば、正解を導けるはずである。

データモデルに業務ルールを反映する力は、実務の場でも求められることが多い。基本の業務ルールを読み取り、それが様々な業務イベントの中で、どのようにデータ構造に反映されるか、深く考えることを心がけてほしい。